

6-3
668

才三十四回科学技術行政協議会要旨

日時 昭和二十六年十一月十四日 午後一時半—四時

場所 總理大臣公邸

出席者 内閣官房副長官、法務、大藏、総本委員、務臺、高垣、

東田、都留及び我妻委員を除き全員出席

四、議長 天野副会長

五、協議事項

1 国立大学大学院について

茅委員より昭和二十八年度より国立大学の大学院が竣足するが、その際建物施設を充實し、教官および学生のため別途の研究費を計上するよう学術会議の要望を説明された。文部省委員よりこの趣旨には賛成で明年度予算にも要求している。又研究費についてはすでに本年度から大学院を置くことと予想される学部に対しては従来の二部としている

旨の答辯があつて、官房長官より文部省大藏省に通知する事となつた。

2 学術用語制定について

茅委員より現任文部省学術用語分科審議会で實施している事業は学問の進歩と正しい普及にきわめて重要であるから完成まで繼續されて、学術会議の要望を説明された。これに対し、文部省委員より過去四年にわたり、非常に困難な仕事であつたが委員の努力で繼續して来たが、或る時期を画して、一區切りをして学会に發表し、その成果についていろいろの批判を受けて、その上更にこの仕事を廣展するのが適當と考へている旨答辯があり、茅委員より一應區切りをつける事は了解するが、それで終了する事なきを願念を申され、文部省委員より勸告の趣旨は不承している旨返答があり官房長官より文部省に通知する事となつた。

天野 3/3

3 科学技術輸入部会報告

鈴江事務局長より報告了承された。

4 海外渡航部会報告

鈴江事務局長より報告了承された。

5 科学技術輸入部会報告

鈴木事務局長より大蔵省の予備費より現下特に必要と認められる科学技術費を五億(十七万ドル)輸入する事の承認を得た。これは非常に高價な設備で我國の現状として他の研究機関に將來設置する事は困難であるので、之れを置く活用するため各機関等に関係者からなる運営委員会を設ける件を事務局より提案し、承認を得た。

6 放射性同位元素部会報告

茅委員並びに鈴木調査課長よりコバルト六〇の配分につき説明あつて承認を得た。

7 国際計数センター部会報告

茅委員から総論の説明があり部会の設置要領、部会長より外務次官宛の意見書、国際計数センター設立のための條約草案についての外務省情報部長宛の意見書、並びにラポラトリウムを日本に設置するためのバリ会議への提案につき了承を得た。

8 防災部会報告

千秋事務局長から防災部会設置要領案につき、説明があり了承を得た。

9 茅委員から国際物理学会を京都で開催する件につき、経過の説明があつた。又宮澤委員の後任として大塚信泉学会長が就任せられ挨拶があつた。

